

特集 芦屋を彩るアーティスト



「最後の晩ごはん」シリーズ

読むとお腹が空くけれど、心は満腹間違いなし！

ねつ造スキャンダルで活動休止に追い込まれた、若手俳優の五十嵐海里（カイリ）。全てを失い、郷里の芦屋に戻った彼は、定食屋の夏神留二に救われる。彼の店で働くことになった海里だが、とんでもない客が現れ……。

人の優しさとゴハンのおいしさに救われる、切なくてファンタジックな青春小説！！

楳野 道流 【ふしの みちる】

兵庫県出身、芦屋市在住。1996年「人買奇談」で第3回ホワイトハート大賞エンタテインメント小説部門の佳作を受賞しデビュー。その後発売された「人買奇談」に始まる「奇談」シリーズが人気となりロングシリーズに。一方で法医学教室の監察医としての経験も生かし、「鬼籍通覧」シリーズなどの監察医もののミステリーも発表。



—作家活動を始めたきっかけは

大学院生のとき、高校時代の友人に誘われ新人賞に応募したのがきっかけです。生まれて初めて書いた小説が入選して、作家としてデビューしました。最初に出版社からは「3作書いて売れなければ終わり」と言われ厳しい世界だなどと覚悟しました。それでも何とか切れ目なくお仕事がいただけて、作家として生活していくかもしないと思えたのは10年ほど前です。

れた芦屋を舞台に小説を書こうと用いました。読者の皆さんからは「小説に出でてくる場所に行つてみたい」「インターネットで地図を調べて場所を知りたい」などの声が多いので、小説に登場する場所は細かく書くように心がけています。1作目で主人公海田が公園で眼鏡(小説に付喪神「ロイド」として登場)を拾うシーンがありますが、芦屋神社のすぐ近くの公園のイメージが湧くよう書いています。



「最後の晩ごはん」シリーズは、現在7作発行されています。

——なぜ、芦屋を舞台に小説を書こうと思われたのですか

衛生学、法医学を教えています。

—作家のほかに医師としての活動も
されていますか

— 小説の舞台となる「ばんめし屋」の
場所は

「小説を書く時に法医学者時代の経験はいきていますか」という設定です。世間では「芦屋に住んでいます」というと、山手に大きなお屋敷がある、お金持ちのまちのイメージが強いので、「あーっ、あの芦屋」と言われます。でも、本当は普通の住宅が立ち並び、親しみやすい飲食店があちこちにある庶民的なまちなので、そういう芦屋を紹介したいと思い阪神沿線を中心に書いています。

は一度もありません。ご遺体を解剖させていただくときも、たとえ故人がその場で見ていても、気分を害さないような仕事を心がけていました。個人的には「最後の晩ごはん」のように、死者が心残りを少しでも減らせる手段があればいいと思っています。

一芦屋について出

小説では、海里の前に成仏できない幽霊が登場します。海里が、幽霊がこの世に残した願いを叶えたり、想いを代わりに伝えたりしようと奔走するシーンがあります。私は法医学者時代

— 小説を書く時に法医学者時代の経験はいきますか

れれた芦屋を舞台に小説を書こうと思
いました。読者の皆さんからは、「小説
に出てくる場所に行つてみたい」「イ
ンターネットで地図を調べて場所を
知りたい」などの声が多いので、小説
に登場する場所は細かく書くように
心がけています。1作目で主人公海田
が公園で眼鏡（小説に付喪神「ロイド」
として登場）を拾うシーンがあります。
が、芦屋神社のすぐ近くの公園のイメージ
が湧くように書いています。

芦屋 × 最後の晩ごはん

櫻野道流作家